

J. R. コモンズにおける大恐慌と制度経済学
The Great Depression and Institutional Economics
on J. R. Commons

高橋真悟
Shingo Takahashi

J. R. コモンズの主著『制度経済学』[1934]は、大恐慌開始後の出版でありながら、大恐慌に関する分析がほとんどされていない。1931年の報告など数少ない資料から考えられるコモンズの大恐慌分析は、既存の大恐慌研究におけるキンドルバーガーやアイケングリーンの主張と共通するものがあるが、国際的な金利協調政策は独自の視点といえる。大恐慌がコモンズの経済思想に与えた影響としては、制度の定義、司法的取引から割当取引への変更、適法手続を重視した行政委員会が挙げられ、それらは彼がいう適正な資本主義の実現と深く結びついている。

キーワード： 大恐慌 利潤マージン 制度 割当取引 適正な資本主義